

稻荷鬼王神社 鎮花祭 ～復活の祭～

江戸の花・
さくら草を
愛でながら
「あの日」を
思い出して
みませんか。

同時開催
3がつ11にちを
わすれない展
2016

4.18 Mon ~ 4.30 Sat
早朝から夜の閉門（20時ごろ）まで

稻荷鬼王神社

東京都新宿区歌舞伎町2丁目17-5
東京メトロ・東新宿駅下車徒歩3分

歌舞伎町2020

<http://kabukicho2020.see>

主催：稻荷鬼王神社、NPO法人コミュニティアート・ふなばし
協力：一般社団法人まちとアート研究所

お問合せ：TEL 03-3200-2904（大久保）、shimoyama01@gmail.com（下山）

復興への 思いを込めて

春花飛散・百花繚乱の時節に流行病を起こすと考えられた疫神を鎮圧するのが「鎮花祭」。稻荷鬼王神社では18日にさくら草を神前に供えて鎮花の祭典を行い、以後月末まで「江戸の花」といわれる「さくら草」の鑑賞会を催している。江戸時代には、神社周辺は植木屋の町で、この日になると植木屋が自ら育てたさくら草を神社に持ち寄ったと言い、野草を愛した先代の時代に神社自らがさくら草を育てることで復活、今日の姿になりました。

東日本大震災から5年。東北だけでなく、東京含め多くの地域に被害があり、今でも苦しむ人が大勢いる中、復興のためにはこれをひとごとにせず、いたわりの気持ちと復興への関心を持ち続けることが大切だと考え、「3がつ11にちをわすれない展」として「あの日」の記憶をつづったイラストや被災地の象徴としての「仙台雑煮」の模型、宮城や福島の当時の写真などを展示します。



稻荷鬼王神社

かつて歌舞伎町や新大久保一帯が大久保村と呼ばれていた天保2年(1831年)、村の氏神であった稻荷神と、熊野から勧請されていた鬼王権現を合祀し、稻荷鬼王神社に。熊野の鬼王権現は現存していないため、「鬼王」の名を持つ日本唯一の神社である。また大祭で担がれる宮御輿は、鬼面が彫られた珍しいものである。

祭神は、稻荷神の宇迦之御魂神、鬼王権現の月夜見命・大物主命・天手力男命。境内の三島神社に祀られている恵比寿神は新宿山ノ手七福神の一つである。

歌舞伎町という地にありながらも閑静なその一画は、江戸の風情と文化を今に伝えている。



特定非営利活動法人 コミュニティアート・ふなばし

1997年から千葉県船橋市をはじめ日本各地で活動するアートNPO。コミュニティにおける課題を発見し、美術・演劇・ダンス・映像などさまざまなアートにより創造的な解決を目指す「コミュニティアート」の企画・運営を展開している。震災後はいち早く被災地に入り、今なお継続的に支援を行っている。歌舞伎町では2010年より10年後の歌舞伎町を地域コミュニティとともに模索していく「歌舞伎町2020」に取り組んでいる。



門脇 篤

1969年、仙台市生まれ。「まちとアート」をテーマに各地でコミュニティアート型の取り組みを展開している。震災を伝えるラップでをはじめ、さまざまなメディアで「声なき人々」の声を伝え取り組みを行っている。

